

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：フィリピン セブ島 マゼランクロス

Topics

タジキスタン大統領がJDS留学生と面会

- ◆ 活躍する帰国留学生（キルギス）
- ◆ ほっとひと息：フィリピン

タジキスタン大統領が JDS留学生と面会



2025年12月19日、「中央アジア+日本」対話・首脳会合に出席するために訪日中のエモマリ・ラフモン・タジキスタン大統領は、都内にて、JDS留学生を含む日本で学ぶタジキスタン人留学生と面会しました。



大統領との面会の様子

同国の[大統領府ホームページ](#)での掲載記事によると、面会では、大統領が学生一人ひとりの学修状況について関心を寄せて耳を傾けたうえで、「日本の大学で培った知識と技術を将来タジキスタンの発展と進歩のために生かしてほしい」との期待を述べ、学生たちにとっては、自らの学びの意義と責任を改めて認識する貴重な機会となったということでした。

また大統領は、各専門分野を深くかつ幅広く学び、日本の高度な教育環境の中で最大限の成果を上げるよう学生たちを激励し、タジキスタンでは独立以降、政府の継続的な取り組みにより、科学・教育・文化分野が着実に発展してきたことに触れるとともに、国の将来を担う人材育成の重要性を強調したとのことでした。

今回の面会は、タジキスタン人留学生にとっては大きな励みとなっただけでなく、JDS事業が掲げる「将来の国づくりを担うリーダーの育成」という目標を、留学生自身が改めて認識する貴重な機会となりました。



大統領の話に聞き入る留学生たち
出典：[タジキスタン大統領府ホームページ](#)（写真）

参加した JDS 留学生からは、「大統領にお目にかかることができ、大変光栄でした」「教育の重要性、そして海外で学ぶタジキスタン人学生に託された使命を母国がいかに重視しているかを感じました」といった声が寄せられ、貴重な機会への感謝の言葉が多く聞かれました。

SINCE 1999



Where
Leaders
are made.



JDS The Project for
Human Resource Development
Scholarship



Mr. AKZHOLOV Nurbek Akzholovich (アクジョロフ・ヌルベック・アクジョロヴィッチ氏)

立命館アジア太平洋大学大学院経営管理研究科、2014年修了、財務省副大臣

2025年10月、キルギスJDS帰国留学生のアクジョロフ・ヌルベック・アクジョロヴィッチ氏は財務省副大臣に任命されました。同氏は2012年に来日し、立命館アジア太平洋大学大学院経営管理研究科の修士課程に留学しました。2014年に帰国後、国際金融関係専門官、部門長等を歴任しました。

現在、同氏は財務省において、財政基盤の確立、投資促進、外国援助の誘致、資本支出の管理・調整、諸外国とのパートナーシップの構築等を担当しています。また、JICAや三菱UFJ銀行との連携に加え、在キルギス日本国大使館の支援を得て内閣府が推進する対日直接投資推進施策(Invest Japan)にも参画しながら、日本の民間企業の誘致に取り組むなど、その業務範囲は多岐にわたっています。



アクジョロフ・ヌルベック・アクジョロヴィッチ氏
出典:[アクチャパール\(オンラインメディア\)](#)

アクジョロフ氏に日本での留学経験とその後の業務での活用についてお伺いしたところ、次のように述べました。

大分県別府市という、景観の美しさで知られる街に位置する立命館アジア太平洋大学で学びました。初めて訪れた時、温泉から立ちのぼる湯気がとても美しかったのを覚えています。日本滞在中に触れた、日本人の規律ある姿勢、忍耐力、そして寛容性は私に大きな影響を与えました。日本滞在中の2年間、私は意欲的に学習に取り組み、卒業に必要な42単位を大きく上回る64単位を取得しました。国内外の専門家による数多くの論文を読み、修士論文を完成させることに集中して睡眠時間を削ることもありました。しかしながら、留学期間中に得たスキルと能力は、現在の職務において直接活かされています。

私はJDSに応募する前から日本に親しみを感じていました。友人からJDS留学を勧められたことに加えて、日本には私が学びたかった分野の最先端技術があったため、JDSへの参加を決めました。現在、日本で勉強中のJDS留学生には、帰国後母国キルギスに貢献できるよう、日本の公共管理システムについて特に研究・調査するよう推奨したいと思っています。

今後もアクジョロフ氏の活躍が期待されています。



フィリピンは東南アジアの島々から成る国で、豊かな自然と多様な文化が息づいています。7,000を超える島々には、白砂のビーチ、熱帯雨林、火山帯など変化に富んだ風景が広がり、人々の生活や地域ごとの文化を形づくってきました。タガログ系をはじめ、ビサヤ、イロカノなど多くの民族が共に暮らし、歴史的にスペイン、アメリカ、そしてアジア各地域との交流を経たことで、言語・宗教・生活習慣が混じり合い、独自の文化が育まれています。今回は、そんなフィリピンの人々が大切に受け継ぎ、日々の暮らしの中で親しまれている食文化をご紹介します。



【Halo-halo(ハロハロ)】

タガログ語で「混ぜる」という意味を持つ ハロハロは、さまざまな具材を混ぜ合わせて楽しむフィリピンの代表的なデザートです。かき氷をベースに、色とりどりのゼリー、甘く煮た赤豆やガルバンゾ(ひよこ豆)、さつまいもやバナナの甘煮、さらにココナッツの果肉やフルーツなど、複数の異なる食材が層のように重ねられています。そこにミルクをかけ、仕上げに紫色のウベアイス(ウベ=紫ヤム芋のアイスクリーム)が添えられるのが一般的なスタイルです。混ぜることで味と食感の変化を楽しめることが特徴です。また、地域や家庭によって使用する具材には違いがあり、「その土地ならではのハロハロ」を味わえる点も魅力のひとつといえます。

【Piyaya(ピヤヤ)】

ピヤヤは、フィリピンのネグロス島、特にバコロドの名物として親しまれている、薄いパイ生地のお菓子です。外側はパリッと軽い食感で、かじると中から黒砂糖(モラセス)を甘く煮詰めたフィリングがとろりと広がるのが特徴です。焼き立てはほんのり温かく、外はサクッと、中はしっとり甘いコントラストが楽しめます。シンプルながら一度食べるとクセになる味わいで、お土産としても人気があります。



出典:Foxy Folksy

JDS 3つの特徴

- 1 **行政官限定事業**
※一部例外がございます
- 2 **6,708名 28カ国**の実績
※事業終了国の人数も含む ※2025年度までの人数
- 3 **大臣・局長級**を輩出

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<JDS実施国 (JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、
 Bangladesh、フィリピン、キルギス、タジキスタン、
 スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、モルディブ、
 ケニア、セネガル、ウクライナ、モザンビーク

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、
日本との政策対話に携わり二国間関係の強化に寄与する等、
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による
JICA留学生事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

JDSの実施国へ出張すると、帰国留学生と再会して思い出話に花を咲かせる機会がよくあります。その際、話題として最も多く挙がるのが、留学中にモニタリングを通じてサポートをしていた担当者の存在です。振り返ってみると、2年間にわたり定期的に面談を行い、健康上のトラブルが発生した際にも迅速に対応してくれるなど、留学生にとって常に頼りになる存在だったことが理由だと考えられます。

近年、帰国後の留学生とのネットワークをどのように維持・強化していくべきかについて、事業関係者の中で議論を重ねる場が増えています。やはり、継続的な関係構築には、定期的なコンタクトを保つことが相手の記憶に残り、ネットワークを強固にするうえで欠かせない要素であると改めて実感しています。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org